

○ 形あるものはいつか壊れる、を実感

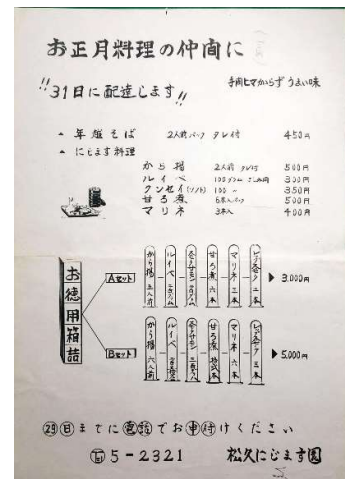
松久園の庭に「移住の松」と呼んでいる大きな松の木がありました。言い伝えによれば（祖父に聞いただけです）私の曾祖父がこの地に移住した時に植えたもの、とか。樹齢約120年、周囲は4mほどある巨木でしたが、先月初めの強風で根元から倒れてしまいました。水曜日の夜のことでもあり周囲に人がいなかったのは何よりでしたが、現在の母屋を建てる前に住宅として建てられ、今は物置として使っていた建物が大きく壊れてしまいました。木曜の朝に出勤して倒れた姿を目にしたとき、ショックというよりは「すげえなあ」と半ば感嘆しつつ、これからどうしたものかと途方に暮れておりました。結局森林組合をお願いして枝を払ったうえで、木を引っ張り出してもらいました。大部分は処分してもらったのですが、幹の一番太い部分を5mほど、記念としてそのまま現場に残してあります。新たな見どころとして活用できないか、現在思案中。



倒れた直後の写真。物置の中の軽トラック、辛うじて助かったものの枝が邪魔して外に出られません。

○ 芽室の市内局番が一桁だった時代の年越し料理

おかげさまで昨年の末も、年越しオードブルを始め多くの料理のご予約をいただきました。「年越しの料理は昔からずーっとお宅だよ」と言っていたくことも多いのですが、当園の年越し料理はいつごろから手掛けているのかと昔のチラシを探してみますと、見つかった中で一番古いと思われたのが右のもの。写真はなく黒一色、そして手書きという時代を感じさせるチラシでした。近年の「年越しは松久園のオードブルで」などという文句に比べると「お正月料理の仲間」にというのが控えめですね。この頃は今のオードブルのような盛り合わせではなく、から揚げ、ルイベなど単品料理のみだったようです。その後オードブルタイプの盛り合わせ料理を作るようになったのですが、当初は今のようないし捨ての容器ではなかったため、31日に料理を配達したお宅には、年明けの2日か3日に改めて容器の回収に回っていたような覚えがあります。



○ あつ森人気、いまだ衰えず

「友だちが『あつ森』の話題で盛り上がっていても仲間に入れない！」と三女が訴え続けること約一



たぬきちの誕生日は5月30日。私と同じふたご座だということが判明。

年、とうとう我が家にも「あつ森」こと「あつまれどうぶつの森」がやってきました。発売から2年近く経って人気もだいぶ下火になってるんじゃないの、という予想とは裏腹にまだまだ世の中でも人気らしく、先日コンビニで十六茶を買うとおまけに「あつ森ミニカレンダー」が付いてきました。かわいいのでもっと揃えたい、と次に別の店に行ったときに棚を見ると、何も付いてない。「もう終わっちゃったんだー、残念」と帰ってきてから思い出しました。十六茶じゃなくて爽健美茶見てました。